

小松川小学校の校内には書籍に関する掲示物が児童たちの興味をひく

第21回
江戸川区

全国初の試み、豊かな人間形成をめざした「読書科」設置

～江戸川区「読書改革プロジェクト」の取組～

江戸川区では、平成24年度より区内の全小・中学校106校を対象に全国初となる「読書科」を設置しました。

児童・生徒たちの読書意欲を高め、読書活動を積極的に進められるよう立ち上げたこの取組は、本好きの子どもや本で学ぶ子どもを育てる試みとして大変注目されています。

また、読書が想像力や表現力を育てるだけでなく、学校や地域、家庭をつないだ全体的な読書の高まりが期待できる点も画期的であると言えます。今回の記事は、全国初の試みである「読書科」の設立とその根底となる「読書改革プロジェクト」について紹介します。

「読書改革プロジェクト」を発足

目的を持った読書への転換

江戸川区では、それまで各小・中学校で実施してきた朝読書を見直し、①「読解力の育成」を図ること②読書の幅を広げたり、活用力や探究力を身に付けたりすること③「読む」時間の確保だけでなく、質と量を高めること——といった「目的を持った読書」への変換を図るために、平成21年度に「読書改革プロジェクト」を発足しました。

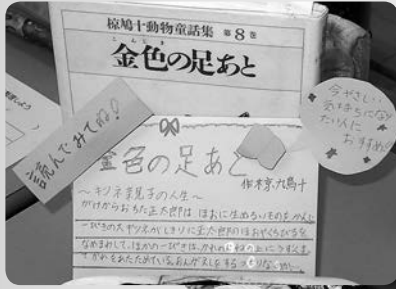
読書改革プロジェクトでは読書の質や量を高めるために、読書週間ポスターづくりや読書展、おすすめの本の紹介の募集や学校図書を整備など、本に対する興味が高まるような取組を行ってきました。

翌22年度には「読書科検討委員会」が設置され、積極的に読書活動に取り組むための方法が模索されました。教育委員会や外部有識者の協力を得ながら進められ、読書を通じて、生きていくために必要な知識・能力を身につけることをめざし、平成24年4月より公立小・中学校で全国初の試みとなる「読書科」が設立されました。

「読書科」の活動の様子

大田区
北区
港区
葛飾区
板橋区
世田谷区
荒川区
新宿区
江戸川区

朝読書の様子。みんな思い思いに好きな本を読む



自分が読んだ本をPOPIにまとめる。POPIには読んだ人の思いが込められる



ブックトークの様子。みんな熱心に授業を受ける



アニメーション「これが私のつけた書名」の様子

読書改革プロジェクトが作成した読書啓発のポスター



「読書科」のもたらしたもの

「読書科」の主な内容

読書科の取組は、区内小・中学校106校が文部科学省の教育課程特例校の指定を受けて行われています。開始年度である平成24年度の年間25時間から、平成26年度は年間35時間で実施しています。

また、4月23日を「全校一斉読書の日」とし、江戸川区のすべての小・中学校で、読み聞かせなどの読書活動が実施されています。

読書科の内容は大きく分けて、朝読

書と読書活動の2つがあります。朝読書では各自好きな本を読む一斉読書や、読み聞かせ、アニメーション(子どもたち)に読書の楽しさを伝え、子どもが生まれながらに持っている読む力を引き出そうと開発・体系化したスペインで始まった読書指導メソッド)、ブックトーク(読書の楽しさを知るために、テーマにそって、何冊かのさまざまなジャンルの本を順序だてて紹介する取組)など、本に親しむための活動を行っています。

そして、朝読書を支える形で「読書活動」が行われています。読書表現活動(意見交換、作品づくりなど)や、

本の扱い方や探し方を知る学校図書館利用指導、情報収集、活用力の育成につながる調査・発表スキル学習などが行われています。

この2つの活動の中で、児童・生徒は自分の読んだ本について思い思いに表紙や気に入った場面のイメージ画を描いたり、本の帯、POP、ポスターなどの作成や本の登場人物の性格分析や人生批評、本の内容にまつわる心に残った言葉の紹介、その後の物語を創作するもう一つの結末作りなどに取り組みます。それによって本への興味が高まるだけでなく、考える力や想像力、コミュニケーション能力が育まれます。

教育課程特例校とは

文部科学大臣が、学校教育法施行規則第55条の2に基づき、学校を指定し、学習指導要領等によらない教育課程を編成して実施することを認める制度。指定を受ける要件として、

- 学習指導要領等において全ての児童又は生徒に履修させる内容として定められている内容事項が、特別の教育課程において適切に取り扱われていること
 - 総授業時数が確保されていること
 - 児童又は生徒の発達段階並びに各教科等の特性に応じた内容の系統性及び体系性に配慮がなされていること
- などの項目が定められている。



「読書科」の充実のために

区教育委員会では、読書科の取組を推進するために各学校に対し主旨を丁寧に説明するとともに、指導資料集を作成するなど基本的指導内容を示すことで各学校の取組を支援しています。

また、指導する教員のスキルを高めるため、各学校の司書教諭を対象に年3回の「学校図書館司書教諭研修」を行っているほか、管理職から教諭まで誰でも参加できる「読書活動指導法研修」も年3回実施しています。この研修によって児童・生徒たちの読書活動を推進するための

の手立てや図書館の活用を推進する方法を学び、より良い読書活動を推進していきます。

読書科設立前から始まっていた学校図書館の整備についても、平成19年度は約6000万円の予算だったものが平成20年度以

降1億円を超える規模で進めてきました。

さらに、平成24年度には約10万冊購入する計算となる約1億7000万円を予算計上することで、書架などの備品の整備や蔵書の新規購入、古い図書の本の整備などを行ってきました。結果的に平成19年度末から平成25年度末までの間で蔵書数が約26万冊まで増加するなど、その充実が図られています。

学校によっては、廊下などの空きスペースに読書コーナーを設置したり、保護者や地域の人たちの協力を得て、児童・生徒たちにとって居心地のいい学校図書館の整備を行ったりするなど、創意工夫を凝らした環境づくりが実を結んできています。

こうした読書科の取組によって、児童・生徒の読書に対する意識は変化しています。

平成25年度の文部科学省「全国学力・学習状況調査」の質問紙調査における「読書が好きですか」との問いに対し、小学校72・7%（平成21年度は70・7%）、中学校73・4%（平成21年度は64・6%）が肯定的に回答するなど、着実に根付いている様子がうかがえます。

学校応援団とは

「学校応援団」は、学校長の経営方針に基づいた教育活動を「子どもたちのために役立ちたい」という思いをもっている保護者や地域の方が支援する活動。区内の区立小・中学校全校で実施されている。

学校教育活動を支える点で、保護者や教職員に限定されるPTA活動と違い、地域の人々が参加して活動する点に大きな特徴がある。

内容は主に3つの支援から成り立っている。

①学習活動の支援

授業の補助、ドリルの採点、実験や実習の補助などの学習支援。部活動やクラブ活動の支援。運動会、公開授業、水泳指導のお手伝い、書き初めの指導、昔遊びの紹介など

②教育環境の支援

図書の整理や読み聞かせなど図書支援、花壇や樹木の整備など校内美化支援など

③危機管理、健全育成の支援

校外学習の引率、登下校の見守りなど

地域や家庭で高まる読書機運

読み聞かせボランティア

読書科の取組に、地域の協力も広がってきています。

読み聞かせボランティア研修では心構えや読み方、おすすめ本の紹介も講義される



各学校には「学校応援団」が組織され、その中でも多くのボランティアの人たちが参加しているのが図書ボランティアです。

図書ボランティアには、図書室の装飾や本の整理、修理などの環境整備をする「図書整備ボランティア」と児童・生徒に本の読み聞かせをする「読み聞かせボランティア」があります。今回の読書科設置によって読み聞かせなどの活動が進むことで地域と児童・生徒との読書活動の共有が進んでいます。

実際に行った人からは「子どもの様子が見えてよかった」「長年やっていた中で、子どもの成長がみれて非常に楽しい」といった声も聞かれています。これまで、読み聞かせを行ったことがない人に対しては研修の場も用意されています。平成22年度から江戸川読み語りネットワークの協力を得て読み



読んだ本を読書新聞で紹介。表現力も培われる

地域の書店では子どもが作成した「おすすめの一冊」をパネル展示



春江小学校や新堀小学校では読書科の授業で児童たちが作成したおすすめの本を近隣の書店でパネル展示(夏休み期間中)しています。その他の学校でもPOPやポスター、しおり、読書新聞などの制作物が区内の書店や地域図書館で紹介されています。

地域の協力

きかせボランティア研修が行われており、読み聞かせの心構えや基本的な絵本の読み方、読み聞かせにおすすめの本の紹介などを講義しています。すでに73校中57校の小学校で開催されており、ボランティアに携わる人々から好評を得ています。

護者、読みきかせボランティアを対象に「大人と子どものための読みきかせの会」が開催されています。等身大の布の絵本に沿って読み聞かせるだけでなく、場面に合わせた音響効果などの工夫もされ、参加者からはとても感動したという声が多く聞かれます。その他にもさまざまな取組が行われていますが、区民からは「活字離れが進む中、非常に素晴らしい取組」と高い評価を得ています。



大人と子どものための読み聞かせの会の様子。読み聞かせと音楽が相まって感動を呼ぶ



学校図書館も充実。中には廊下などに展示する工夫も



豊かな人間形成をめざして

読書の機運をさらに高めるために

読書は知識を高め、情緒を深めます。そうした中、読書科の求めるところは「読書を通じた豊かな人間形成」にあります。

区では、読書の機運をさらに高めるために、平成26年度の新たな試みとして、平成27年1月27日に小松川さくらホールで読書科に関する発表会を行う予定です。小・中学校の読書科の作成

物や図書の展示、講演会やワークショップ、小学校の読書科の授業公開、図書室公開などを行い、区民に向けて読書を通じたコミュニケーションの大切さや楽しさを啓発していきたいと考えています。

読書改革プロジェクトや読書科の設置によって、学校や地域では読書の機運が高まっていますが、家庭における読書の推進は今後の課題でもあります。区では、こうした発表会のような新たな試みも取り入れながら、豊かな人間形成をめざして、地域や家庭も一体となった読書活動を一層積極的に進めていこうと考えています。

学校図書館ブックフェアとは

教員や図書ボランティアに向けて行われているのが、小・中学校図書館向け「学校図書館ブックフェア」(東京都書店商業組合江戸川支部主催)です。約12,000冊のさまざまな分野の本を直接手に取って読めるようになっているほか、POPづくりやブックトークなどの読書指導のセミナーが用意されており、多くの参加者でにぎわっています。

